

## 專門科目（音樂環境創造）

## DTP出版編集演習

載] まで。

代表教員：岸本 剛

曜日時限：木曜5限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

美しく読みやすい本・雑誌・チラシ・パンフレットなどのデザイン・制作を通じ、自分や他者の意図を正確に相手に伝える技術を学ぶ。パソコンでの文字や画像の扱いに強くなる。

また、だれもがメディアになれる時代のプロデューサー行為、編集行為について考える。

### ■授業計画及び内容

Macintosh を用いた実習。取材や執筆を行うこともある。使用アプリケーションは、Word、Photoshop、Illustrator、InDesign 等。アプリケーションの習熟だけでなく、ブックデザインのルール、日本語や文字の知識、印刷・製本、著作権についても学ぶ。また、制作側としての企画立案、原稿編集、校正、進行管理などのワークフローについてもふれる。

なお、千住アートパスのデザイン担当者が履修している場合は、後期授業内で作業を行う可能性あり。本年度は数コマ、Web サイト作成の入門講義も行う予定。

講 義 レ ジ ュ メ は  
<http://homepage.mac.com/ksmt/mce/> を参照。

聴講は応相談。

### ■教材・参考書

レジュメを配布。随時参考文献指示。

### ■成績評価の方法

理解度を問うテストあり。随時作品提出あり。ひたすら実習なので出席は必須。

### ■履修上の指示事項

パソコン操作の経験不問。ノートパソコンの持ち込み可。

### ■備考（オフィスアワー）

質問があれば[メールアドレスはG-net シラバスに記

## 音楽環境創造概説 1

代表教員：西岡 龍彦  
曜日時限：月曜3限  
学 期：通年  
単 位 数：4  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽併設  
交流区分：

### ■授業のテーマ

西洋音楽を中心とした創作技法

### ■授業計画及び内容

スタイル、楽曲の構造や楽器法の分析など。  
与えられたテーマについて発表させる。

### ■教材・参考書

必要に応じて指示する。

### ■成績評価の方法

レポート

### ■履修上の指示事項

音楽環境創造科対象

### ■備考（オフィスアワー）

木曜日、金曜4限

## 音楽環境創造概説 2

代表教員：亀川 徹  
曜日時限：月曜2限  
学 期：通年  
単 位 数：4  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽併設  
交流区分：

### ■授業のテーマ

音を扱う上で必要となる音響の知識を習得する。

### ■授業計画及び内容

講義では以下のテーマを扱う。

#### 【前期】

音の物理  
耳の仕組み  
音響心理学の基礎  
電気音響  
コンピュータとデジタルの基礎

#### 【後期】

音のデジタル化  
楽器音響  
建築音響  
録音技術  
音響に関する研究の計画と実行

### ■教材・参考書

教科書は特に定めませんが、必要に応じて参考書を紹介する。

### ■成績評価の方法

評価はレポートあるいは試験および出席によって行う。ただし出席回数が全体の 2/3 に満たない場合は失格、不正行為（データの改ざん、アイディアの盗用など）は不可とする。

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

奇数週の木曜日 3?5 限。ただし、会議が入ることが多いので、メールにて予約を取ることが望ましい。

## 音楽環境創造概説3

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：金曜1～2限

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

芸術と社会の関係を今日どのように考えればいいのか。社会学、文化環境論、NPO論の観点から考察する。

### ■授業計画及び内容

講義形式と計画

三人の担当教員がリレー式で講義を行う。

内容は以下のとおり

ポピュラー音楽と資本主義（毛利）

芸術環境・文化政策（熊倉）

芸術の位置づけ（市村）

### ■教材・参考書

『アーツマネジメント概論（三訂版）』小林真理・片山泰輔監修編 水曜社 2009年

『増補 ポピュラー音楽と資本主義』毛利嘉孝 せりか書房 2012年

そのほかの参考書・教材は授業中に指示する。

### ■成績評価の方法

出席を重視（40%）

各担当教員に指示にしたがってレポート・課題を提出（60%）

### ■履修上の指示事項

希望者は、必ず事前に担当教員に確認すること。

### ■備考（オフィスアワー）

金曜日5時より（市村） 金曜日5限（熊倉） 水曜日3限（毛利）

## 音楽環境創造概説4

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：金曜1～2限

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

今日、「芸術」とはなんだろうか。どのように発達し、どのように変わっていくのだろうか。身体表現やアートプロジェクト、都市やメディアにおける「芸術」のあり方を考える。

### ■授業計画及び内容

講義形式と計画

三人の担当教員がリレー式で講義を行う。

内容は以下のとおり

都市空間とメディアと芸術（毛利）

アートプロジェクトと市民参加・文化政策（熊倉）

舞台芸術・ダンス演劇の現在の課題（市村）

### ■教材・参考書

『ストリートの思想』毛利嘉孝 NHK出版 2009年  
参考書・教材は授業中に指示する。

### ■成績評価の方法

出席を重視（40%）

各担当教員に指示にしたがってレポート・課題を提出（60%）

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

金曜日5時より（市村） 金曜日5限（熊倉） 水曜日3限（毛利）

## 音楽基礎演習・上級

代表教員：浅田 淳子

曜日時限：水曜 1～2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

- ・音楽学習の基礎となる楽典に関する学習
- ・読譜力の育成と聴音の学習
- ・音楽作品の鑑賞にあたって必要な基礎知識の修得

### ■授業計画及び内容

- ・年度初めの第1回目の授業でクラス分け試験を実施し、履修希望者の過去の音楽体験や各自の能力に応じて、初級、中級、上級の履修者を決定する。
- ・この授業は教職の単位に関係する。教職を希望する者は、教職に関する規定を理解した上で受講すること。
- ・音楽学習の基礎となる楽典について、後述の教材に沿って学習する（前期は楽典教科書の序章～第5章、後期は第6章～最後まで）。
- ・譜表、音程、リズムなどの要素に分け、読譜力を養う。
- ・和音に関する学習として、楽典に加えコードネームを用いた分析を行う。
- ・演奏可能な楽器を用いたアンサンブルの実習を行う。
- ・各種の音楽作品を採りあげ、各時代や地域の音楽について考察・学習する。

### ■教材・参考書

- ・『楽典』理論と実習（音楽之友社）を音楽基礎演習共通の教科書として用いる。
- ・原則的に毎回教材のプリントを配布する。
- ・五線紙または五線ノートと筆記用具を用意すること。

### ■成績評価の方法

- ・前期と後期の試験期間に筆記と実技の期末試験を実施する。
- ・筆記試験…音楽理論と聴音    ・実技試験…新曲視唱、リズム読み（打ち）

### ■履修上の指示事項

- ・基礎的な訓練は今後の学習効率にも大きく影響するため、自主的な参加、学習が不可欠である。
- ・クラス分け試験で上級に認定された者、及び中級の単位を取得した者は、上野校地で開講する「ソルフェージュ」（音楽環境創造科科目）を履修することができる。なお、クラス分け試験で上級に認定された場合でも、千住校地で開講する「音楽基礎演習・上級」の4単位は必修である。

### ■備考（オフィスアワー）

- ・特に設けないが、メールでの質問は受け付ける。

## 音楽基礎演習・初級

代表教員：茂木 真理子

曜日時限：水曜 1～2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

- ・音楽学習の基礎となる楽典に関する学習
- ・初歩的な読譜力の育成と聴音の学習
- ・クラス分け試験によって初級を履修する者は、初級の単位を認定された後に中級を履修することができる。その後中級の単位を認定された者はさらにこの上の、上級またはソルフェージュ（音楽環境創造科科目）」を履修することができる。

### ■授業計画及び内容

- ・年度初めの第1回目の授業で、クラス分け試験を実施し、履修希望者の過去の音楽体験や各自の能力に応じて、初級、中級及び上級の履修者を決定する。中級を超える実力を認めた者に対しては、「ソルフェージュ（音楽環境創造科科目）」の授業の受講を認定する。この授業は教職の単位に関係するものなので、教職を希望する者は、教職に関する規定を理解して受講すること。
- ・音楽学習の基礎となる楽典について、下記教材に沿って学習する。
- ・譜表、音程、リズムなどの要素に分け、読譜力を養う。
- ・和音に関する講義として、下記教材に加えコードネームを用いた分析、演奏を行う。
- ・音楽作品を探りあげ、各時代や地域の音楽について学習する。

### ■教材・参考書

- ・原則的には毎回教材のプリントを配布する。
- ・五線紙または五線ノートと筆記用具を用意すること。
- ・『楽典』（理論と実習）音楽之友社 を共通の教科書として用いる。

### ■成績評価の方法

- ・前期と後期の試験期間に筆記と実技の期末試験を実施する。

- ・筆記試験…音楽理論と聴音
- ・実技試験…新曲視唱、リズム読み（打ち）

### ■履修上の指示事項

- ・基礎的な訓練は今後の学習効率にも大きく影響する為、自主的な参加、学習が不可欠である。

### ■備考（オフィスアワー）

- ・特に設けないが、常時メールでの質問は受け付ける。  
[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

## 音楽基礎演習・中級

代表教員：小林 弘人

曜日時限：水曜 1～2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

- ・音楽学習の基礎となる楽典に関する学習
- ・読譜力の育成と聴音の学習
- ・音楽作品の鑑賞にあたって必要な基礎知識の修得

### ■授業計画及び内容

- ・年度初めの第1回目の授業でクラス分け試験を実施し、履修希望者の過去の音楽体験や各自の能力に応じて、初級、中級、上級の履修者を決定する。
- ・この授業は教職の単位に関係する。教職を希望する者は、教職に関する規定を理解した上で受講すること。
- ・音楽学習の基礎となる楽典について、後述の教材に沿って学習する（前期は楽典教科書の序章～第5章、後期は第6章～最後まで）。
- ・譜表、音程、リズムなどの要素に分け、読譜力を養う。
- ・和音に関する学習として、楽典に加えコードネームを用いた分析を行う。
- ・演奏可能な楽器を用いたアンサンブルの実習を行う。
- ・各種の音楽作品を採りあげ、各時代や地域の音楽について考察・学習する。

### ■教材・参考書

- ・『楽典』理論と実習（音楽之友社）を音楽基礎演習共通の教科書として用いる。
- ・原則的に毎回教材のプリントを配布する。
- ・五線紙または五線ノートと筆記用具を用意すること。

### ■成績評価の方法

- ・前期と後期の試験期間に筆記と実技の期末試験を実施する。
- ・筆記試験…音楽理論と聴音    ・実技試験…新曲視唱、リズム読み（打ち）

### ■履修上の指示事項

- ・基礎的な訓練は今後の学習効率にも大きく影響するため、自主的な参加、学習が不可欠である。
- ・クラス分け試験で上級に認定された者、及び中級の単位を取得した者は、上野校地で開講する「ソルフェージュ」（音楽環境創造科科目）を履修することができる。なお、クラス分け試験で上級に認定された場合でも、千住校地で開講する「音楽基礎演習・上級」の4単位は必修である。

### ■備考（オフィスアワー）

- ・特に設けないが、メールでの質問は受け付ける。

## 音楽理論演習 A

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：金曜 3 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

音楽制作（作曲、録音エンジニア、音響デザイナー、音楽プロデューサー、音楽ディレクター）のための音楽理論を習得する。

### ■授業計画及び内容

和声と作品分析、様式分析を段階的に学習する。

### ■教材・参考書

必要に応じて指示する。

### ■成績評価の方法

試験

### ■履修上の指示事項

音楽環境創造科の学生で、音楽基礎演習中級を履修した者、もしくは同等の能力があると認められたものを対象とする。

前・後期ともに上野校地で開講する。

### ■備考（オフィスアワー）

木曜日、金曜 4 限

## 音楽理論演習 B

代表教員：山口 博史

曜日時限：木曜 3 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

音楽制作（作曲、録音エンジニア、音響デザイナー、音楽プロデューサー、音楽ディレクター）のための音楽理論を習得する。

### ■授業計画及び内容

和声と作品分析、様式分析を段階的に学習する。

### ■教材・参考書

必要に応じて指示する。

### ■成績評価の方法

試験

### ■履修上の指示事項

音楽環境創造科の学生で、音楽基礎演習中級を履修した者、もしくは同等の能力があると認められたものを対象とする。

前・後期ともに千住校地で開講する。

### ■備考（オフィスアワー）

金曜 II 限

## 音響技術史

代表教員：君塚 雅憲

曜日時限：木曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■授業のテーマ

音の記録・再生技術（ハードウェア）の歴史およびその簡単な技術解説と、それらが社会に与えた影響、また音楽家や演奏者（ソフトウェア）がこれらの技術をどのように受け止め発展させてきたか、加えて、そのハード、ソフト両輪がさらに新しい技術を生み出していく過程を、文化的、社会的側面を含めて考察する。

### ■授業計画及び内容

音の記録・再生技術の進化と変遷を辿り、その時々の新技術と、それらが誕生した背景を考える。併せて、これらの音響技術が音楽芸術や表現にどのような影響を与えてきたかを研究・考察する。

19 世紀末に誕生した電話、蓄音機、映画などの発明が 20 世紀を大きく変え、これらの技術が進化していった。さらに、20 世紀後半にデジタル技術による大きなパラダイムシフトが起こり、これが 21 世紀をリードするものとなった。エジソンの錫箔円筒式蓄音機「フォノグラフ」の発明から、今日の DVD や SACD、さらに Blu-ray Disc などによる高密度記録メディア誕生まで、その技術変遷とエポックメイキングな技術を追ってみる。

難しい音響理論の講義ではなく、その技術を平易に解説し、これらが社会に与えた文化的、経済的な影響にもスポットを当てる。

課外授業として、レコード会社の録音スタジオ見学なども予定。

### ■教材・参考書

『音響技術史』森芳久著 東京芸術大学出版会

『デジタル・オーディオの全知識』柿崎景二著 白夜書房

『カラヤンとデジタル』森芳久著 ワック出版

その他の資料についてはその都度指示する。また、必要に応じコピーを配布する。

### ■成績評価の方法

出席状況と履修態度、

夏季課題発表＝自由テーマによる簡単な研究発表  
通期末のテスト又はレポート提出

### ■履修上の指示事項

#### ■備考（オフィスアワー）

講義日（木曜）Ⅲ限の授業の前後（要事前予約）

[メールアドレスは G-net シラバスに記載]

## 音響心理研究法

代表教員：丸井 淳史

曜日時限：金曜 2 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■授業のテーマ

音と音楽を科学的に扱うためには注意深く計画された実験が不可欠である。この講義では特に音響心理実験における、実験素材の作り方、実験計画、実施、分析などを学習・研究する。

### ■授業計画及び内容

授業中に取り上げるトピックとしては以下のものを予定している。

- ・音の心理学的測定法
- ・実験方法
- ・統計分析手法

### ■教材・参考書

Soren Bech & Nick Zacharov “Perceptual Audio Evaluation” を教科書として用いる。購入は必須ではない。

### ■成績評価の方法

評価はレポートあるいは試験によって行う。配分は前期課題 35%・後期課題 35%・出席および講義への寄与 30%とする。ただし出席回数が全体の 2/3 に満たない場合は失格、不正行為（データの改ざん、アイディアの盗用など）は不可とする。

### ■履修上の指示事項

音楽環境創造概説 1 および 2 を履修済みであること。数学の基礎的な知識があると望ましい。英語の文献を読むこともある。

### ■備考（オフィスアワー）

オフィスアワーは原則として奇数週の木曜日 3?5 限とするが、会議が入ることがあるので、あらかじめメールなどで時間を相談すること。

講義資料は <http://www.geidai.ac.jp/~marui> に掲載する（学内のみ閲覧可能）。

## 空間音響研究

代表教員：中原 雅考

曜日時限：月曜 2 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■授業のテーマ

空間に放射された音の振る舞いに関して理論的に理解し、実空間における適切な音響コントロール手法を身につける。

### ■授業計画及び内容

1. 物理音響の基礎
2. インピーダンス
3. 共鳴，音響素子
4. 反射，吸音，拡散
5. 音源，伝搬，減衰
6. 波動音響理論
7. 幾何音響理論
8. 統計音響理論
9. 演習

### ■教材・参考書

必要に応じて配付する。

### ■成績評価の方法

課題評点，出席率，授業態度等により評価する。

### ■履修上の指示事項

最低限の数学の知識と基礎的な音響学の知識を要する。

特に、音楽音響創造領域以外の履修者に関しては、音響についてのある程度の知識を修得していることが望ましい。

学部講座と大学院講座を同じ枠で解説しているが、大学院の履修生は、演習や課題において学部の履修生をフォローし、より多くの作業を行わなくてはならない。一方、学部の履修生は、演習や課題における提出物に関しては、大学院生と同等の内容のものを提出しなければならない。

### ■備考（オフィスアワー）

## 芸術運営論 I : 音楽マネジメント 1

代表教員：西巻 正史

曜日時限：木曜 2 限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■備考（オフィスアワー）

学外（コンサートホール）での視察&ワークショップを行います。

### ■授業のテーマ

長年、様々なジャンルのアートの現場に携わりながら、現在は日本のクラシック音楽シーンの数少ないプロデューサーとして活動する私自身の目線に立って、作品を作る側に立つ人（アーティスト）、供給する手法を自身の作品とする人（プロデューサー）、享受しエンジョイする人（聴衆、観客）の関係を見つめ直し、多角的に音楽をどう捉えて行ったらよいかを考えていきます。

新鮮な感受性と柔軟な思考を持つうちに受講することを希望します。そうすれば自身のスタンスの確立に役立つと思います。

### ■授業計画及び内容

・授業の進め方は、講義をベースに、学生からのコメント、感想を集め、意見交換しながらさらに問題を深めて考えていきます。したがって、出席とコメントを重視します。

- ・日本人の感性のルーツとその可能性
  - ・日本人のアート受容の特質と特異性
  - ・音楽と社会との関係
  - ・アーティストとは
  - ・聴衆（観客）とは
  - ・プロデューサーを産まない土壌と必要性
- ・・・など

### ■教材・参考書

教科書は使いません。資料を必要に応じてその都度配布します。

参考書は授業の中で指示します。

### ■成績評価の方法

出席して授業に参加することを最重視します。

### ■履修上の指示事項

## 芸術運営論 I : 音楽マネジメント 2

代表教員：山中 聡

曜日時限：木曜 2 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■授業のテーマ

新たな時代の「音楽の仕事」。  
ポピュラー音楽の歴史を鑑みつつ、アーティスト、プロデューサー、マネージメントなどの「音楽の仕事」を具体的な事例をテーマにしながら考察します。

### ■授業計画及び内容

1. マネージメントとは？プロデュースとは？音楽業界概論。
2. 新人アーティストの多面的プロデュース論。
3. ライブ・ビジネスをマネージメントする。
4. 新たな時代のマネージメントとそのビジネスを考える。
5. レーベルとは。ブランドや style の戦略。
6. 音楽のグローバル化。マーケットとマーケティング考察。
7. プロモーションとメディア、そして WEB を考える。
8. イベント・フェスティバルにおけるプロデュース論。
9. カウンターカルチャーからポップカルチャー考察。
10. 地球環境問題と観光誘致的側面からのフェスティバル考察。
11. 世代別マーケットと新たな音楽ビジネスの多面性。
12. 音楽ビジネスの明日を創造する。
13. 「音楽の仕事」総括。

### ■教材・参考書

その都度、紹介します。

### ■成績評価の方法

レポートを課す。

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

## 芸術運営論 I : 著作権

代表教員：福井 健策

曜日時限：月曜 4～5 限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■授業のテーマ

あらゆる表現分野にとって必須の知識「著作権」を、基礎から学ぶ講座。  
論争になった作品や事件を題材に、「アーカイブ」「二次創作」「ソーシャルメディア」などの現代的なトピックを考えることで、著作権が、私たちの情報社会のゆくえにかかわる刺激的な問題であることがわかるだろう。  
最終回では、アーティストのマネージメントに欠かせない、「契約」の入門編もレクチャーする。

講師：福井健策 弁護士（日本・ニューヨーク州）／  
日本大学芸術学部 客員教授  
東京大学法学部卒。米国コロンビア大学法学修士。現在、骨董通り法律事務所 代表パートナー。専門分野は著作権法・芸術文化法。 Twitter: @fukuikensaku

協力講師：北澤尚登弁護士、諏訪公一弁護士（骨董通り法律事務所）

<http://www.kottolaw.com>

### ■授業計画及び内容

- (1) 著作物とは何だろうか？
- (2) それは著作権に触れるだろうか？
- (3) 模倣とオリジナルの境界、日々の音色、ミッフィー vs キャシー、廃墟写真・・・「盗作論争」を考える
- (4) 許される使用の限界 — 引用の限度、海賊版、ダウンロード刑罰化とソーシャルメディア
- (5) 知の共有 — パブリックドメイン、クリエイティブコモンズ、各種のデジタルアーカイブと「孤児作品」問題
- (6) 20 世紀芸術と著作権 — リミックス、二次創作、ボカロ
- (7) 人工知能は星新一の夢を見るか？— ビッグデータとコンピュータの知的作業の限界、アンドロイド・ボーカロイドと著作隣接権

(8) 擬似著作権：ペットの肖像権？、「オリンピック  
応援禁止令」

(9) 契約超入門

(10) アーティスト・マネジメントと契約書の注意点

#### ■教材・参考書

参考書：福井健策『著作権とは何か』『著作権の世紀』  
『デジタルアーカイブ（仮・近刊）』（ともに集英社新  
書）、『契約の教科書』（文春新書）、『ネットの自由 vs.  
著作権』（光文社新書）

#### ■成績評価の方法

出席・授業の参加を中心に、参考として小テストを実  
施

#### ■履修上の指示事項

#### ■備考（オフィスアワー）

### 芸術運営論Ⅱ：芸術支援

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：水曜 4 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

#### ■授業のテーマ

芸術支援について

#### ■授業計画及び内容

アーティストで文化経済学者でもあるオランダのハ  
ンス・アビングの著書『金と芸術—なぜアーティスト  
は貧乏なのか？』（和訳）の第1章から第6章までを  
題材に授業をおこなう。

他学部、他学科からの履修も歓迎する。

特に、アーティストを志望する学生と、芸術環境を専  
門とする学生の議論を期待する。

#### ■教材・参考書

ハンス・アビング著『金と芸術—なぜアーティストは  
貧乏なのか？』（山本和弘訳、grambooks、2007）

#### ■成績評価の方法

出席、授業への参加。大学院生による輪読を聞いて議  
論に参加し、レポートを提出。

#### ■履修上の指示事項

大学院との共通科目のため、基本的には学部の3・4  
年生を対象とする。

#### ■備考（オフィスアワー）

金曜 5 限

## 芸術運営論Ⅱ：芸術支援

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：水曜 4 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■授業のテーマ

芸術支援について

### ■授業計画及び内容

私は現役の写真評論家なので、日本の写真表現の「現場」にかかわるトピックスを、なるべく新鮮にパッケージしてお伝えしたい。もし、写真を使った作品（ポートフォリオ）を作っている方がおられたら、講評の時間も設けたいと思う。（飯沢耕太郎）

デュッセルドルフ芸術アカデミー-Kunstakademie Dusseldorf のアーティストを中心に、いわゆる“アーティスト・フォトグラファー-Artist Photographer” [写真を主要メディアとして用いるアーティスト] の作品構造・その歴史的意義について批評的に考察することを中心に、写真をピクチャー改革メディアとしてとらえるアーティスト（一部思想家）を考察します。（山本和弘）

### ■教材・参考書

飯沢耕太郎 写真評論家/きのこ文学研究家第 1 回  
10/2 ポートフォリオを作る  
第 2 回 10/9 写真集を読む  
第 3 回 10/16 写真展を歩く  
第 4 回 10/23 写真をコレクションする  
第 5 回 10/30 震災後の写真について  
第 7 回 11/13 日本の現代写真  
第 8 回 11/27 ポートフォリオ講評

山本和弘 美術評論家／栃木県立美術館シニア・キュレーター

第 6 回 11/6 アタナシウス・キルヒャーAtha

### ■成績評価の方法

『写真を愉しむ』飯沢耕太郎（岩波新書，2007）  
『写真美術館へようこそ』飯沢耕太郎（講談社現代新書，1996）

『深読み！ 日本写真の超名作 100』(パイインターナショナル，2012)

『複製技術時代の芸術作品』ヴァルター・ベンヤミン（晶文社，1999）

『明るい部屋』ロラン・バルト（みすず書房，新装版，1997）

『写真論』スーザン・ソントグ（晶文社，1979）

### ■履修上の指示事項

出席点、平常点、レポート。

### ■備考（オフィスアワー）

授業内容等変更の可能性あり。詳細授業初回時に指示。

## 芸術運営論Ⅱ：社会事業マネジメント

代表教員：松山 真之助

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■授業のテーマ

社会をよりよきものにするビジネスを起こす。  
素敵なことです。

それが芸術という世界に関わればなおのこと。  
そんな思いを大切にしながら

ソーシャルビジネスを創出するために必要な  
3つの視点を、ワークを交えながら習得します。

- 1) アイデアを生み出す力
- 2) コンセプトを伝えるための力
- 3) 仲間を集める力

### ■授業計画及び内容

1日目 社会起業家得論1 （夢のかけらの見つけ方）

仕事の思想 — 私がここにいる訳  
マンドマップ演習

創発ワークショップ  
マンダラート演習  
ミートザワード演習  
ムービーメーカー演習  
MQ演習 (Moso Quotient)

2日目 組織マネジメント得論 （思いの昇華と組織への展開）

マネジメント手法—バランススコアカード (BSC)  
ミッション・ビジョン・ストラテジー演習  
BSC演習

SCM (ストーリーチェーンマネジメント)  
この作品、商品の空間的歴史的連鎖

3日目 社会起業家得論2 （相互支援、見えない価

値の創造)

ソーシャルアントレプレナーの心得

Invisible Value

私の夢

究極のコンサルテーション演習（相互支援）

ふりかえり

### ■教材・参考書

とくにありません。

当日、資料を配布します。

### ■成績評価の方法

出席 (20%)

受講の姿勢 (40%)

グループワークへの貢献度 (40%)

### ■履修上の指示事項

<履修に必要な宿題> 授業開始の1週間前まで！

(1) ■履修開始までに、自己紹介のメールを講師までお願いします。

[メールアドレスは G-net シラバスに記載] まで

(2) ■素敵だと思う会社、事業、商品、サービスなどを1つ選び

その理由をレポートする。

テキスト形式で。(最低5行くらいでもOK)

(パワーポイントやワードでがっつり書いてもOK)

(1)の自己紹介とともに 松山へメールしてく

### ■備考 (オフィスアワー)

チームに一台PCがあること (多くの学生の皆さんはPC持参ですね)

プレゼンムービーを作っていただきますので、そのために必要。

プロジェクター

OHC (書画カメラ)

ホワイトボード

ポストイット (たくさん)

## 芸術環境創造特殊研究(16)身体芸術論

### 術論

代表教員：市村 作知雄  
曜日時限：金曜3限  
学 期：通年  
単 位 数：4  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽研究科  
交流区分：

#### ■授業のテーマ

身体芸術の基礎を中心に、現在に至るまでを解明する。  
ダンス、演劇、その関連分野も触れる。

#### ■授業計画及び内容

参考映像を見る。

#### ■教材・参考書

適宜配布

#### ■成績評価の方法

レポート

#### ■履修上の指示事項

作品を多く見ること

#### ■備考（オフィスアワー）

金曜日5時より

## 高臨場感音響設計概論

代表教員：大出 訓史  
曜日時限：水曜1限  
学 期：通年  
単 位 数：4  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽併設  
交流区分：交流

#### ■授業のテーマ

ヒトが知覚する音響的な空間印象や臨場感を再現するための基礎を理解し、高臨場感音響システムを設計するために必要な音場再現技術を習得するとともに、高臨場感音響システムの研究および実用化動向を考察する。

#### ■授業計画及び内容

##### ■前期

高臨場感音響の要件

高臨場感音響技術の基礎と理論的背景

様々な高臨場感音響技術の研究開発状況

高臨場感音響技術に用いられる音響トランスデューサ

次世代音響技術のための符号化

##### ■後期

臨場感の要因

視聴覚情報処理の基礎

聴覚心理に基づく高臨場感音響システム設計

マルチモーダルによる高臨場感と超臨場感

高臨場感音響映像システムの国際標準化と実用化動向

#### ■教材・参考書

その都度必要に応じ指示、配布する。

#### ■成績評価の方法

出席状況と授業態度、レポート、試験等により総合的に評価する。

#### ■履修上の指示事項

最低限の音響、数学、物理の知識を有していることが望ましい。ただし、必要な基礎知識は授業の中でも解説する。

#### ■備考（オフィスアワー）

講義終了後必要に応じて設定する。

## コマーシャルにおける映像と音楽

代表教員：高橋 和江

曜日時限：木曜3限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■授業のテーマ

日本のコマーシャルの歴史  
選曲の実習

### ■授業計画及び内容

日本のコマーシャル放映は昭和28年8月28日に始まり、昭和64年1月7日の1日を除いて現在も留まることなく続いている。このコマーシャル史をいくつかの時代に分けてひもとき、各時代のエポック・メイキング的な作品を逐次見ていき、映像と音楽との関わり方を探っていく。また、現在のコマーシャル制作においては、選曲（与えられた映像にふさわしい音源を実際にある楽曲の中より探し出すこと）という工程が非常に重要となっている。これは、作曲未経験者でも取り組める作業なので実際に実習を行い、プロの選曲したものをつき合わせてみることでさらに視野を広めたい。

### ■教材・参考書

その都度必要に応じ配布する。

### ■成績評価の方法

平常点と実習の結果を評価する。

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

## コンピュータ音楽基礎演習

代表教員：中川 善裕

曜日時限：月曜1限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

コンピュータによる新しい芸術表現の可能性を探る  
うえで必要となる基礎的な知識の習得が主な目的となる。

### ■授業計画及び内容

前期はシーケンスソフト(Logic)を使用して、MIDIとサウンドファイルを用いた音楽制作方法の基礎を学ぶ。

後期は、Macintosh用のソフトであるMax/mspを用いてMID信号処理、デジタル音声処理の基礎を学びつつ、アルゴリズム作曲、インスタレーション等、コンピュータを用いた音楽・音響表現の基礎を習得する。

### ■教材・参考書

「Logic Pro X 攻略BOOK」 東 哲哉（著）/サウンド・デザイナー

「2061:Max オデッセイ」

ノイマンピアノ著 リットーミュージック

「Maxの教科書」

ノイマンピアノ 著 リットーミュージック

### ■成績評価の方法

学期末に何らかの音楽制作物を提出してもらう。

その提出物と出席、平常点により成績を判断する。

### ■履修上の指示事項

- ・受講資格はコンピュータの基本的操作ができること。
- ・全授業回数の1/3以上の欠席者には単位を与えない。
- ・音楽環境創造科の学生を対象とする。

### ■備考（オフィスアワー）

## サウンド・シンセシス

代表教員：岩崎 真  
曜日時限：金曜4限  
学 期：通年  
単 位 数：2  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽併設  
交流区分：

### ■授業のテーマ

「音とは何か」という点を電子音響による音づくりを通して学ぶこと、様々な音響作品制作に必要な常識を習得すること、この二点を目標とする。

### ■授業計画及び内容

年間を通じ、以下のようなテーマを考えている。

- ・電子音響制作の基礎
- ・様々なシンセサイザーの構成と原理
- ・減算式シンセサイザーによる音作りの実習
- ・マイクロフォンなどスタジオ機器の基本
- ・テープによるモンタージュの技法
- ・電子音響音楽の歴史

### ■教材・参考書

『サウンドシンセシス』（講談社サイエンティフィック社）

この書籍を教科書として使用する。また適宜プリントも配布する。

参考文献は授業内で指示する。

### ■成績評価の方法

出席を重視する。年間授業数の4分の3以上の出席は必要。前・後期末、或いは年度末に何らかの課題やレポートを与える予定。詳しくは第1回目の授業ガイダンスで説明するので、第1回目には出席することが望ましい。

### ■履修上の指示事項

特にないが、音楽音響一般の理解が深められるよう他の関連講義の受講を合わせてすすめる。

### ■備考（オフィスアワー）

## サウンドデザイン演習

代表教員：沢口 真生  
曜日時限：水曜5限  
学 期：通年  
単 位 数：2  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽併設  
交流区分：交流

### ■授業のテーマ

映画やテレビなどにおいて音楽・効果音・ダイアログなどの音が果たす役割を様々な作品例をとおして学び、実際の作品制作を想定したサウンドデザインの実習をおこなう。

### ■授業計画及び内容

授業計画

- ・概説
- ・サウンドデザインの流れ
- ・音と知覚
- ・音楽の役割
- ・声の役割
- ・効果音の役割
- ・クリティカル リスニング トレーニング
- ・映像とサウンドの相乗効果
- ・サラウンド音響表現の基礎

上記の内容を目安に様々な作品の試聴や実際の音響構成の実践をおこなう。

制作実習は、スタジオでの録音や、屋外フィールド録音も行う。

### ■教材・参考書

サラウンド制作ハンドブック

Sound for TV/Film等

サラウンド入門（2010ー3芸大出版）

### ■成績評価の方法

出席と授業態度を重視しつつ課題作品の内容で評価。

### ■履修上の指示事項

夏期集中ワークショップで1週間の制作実習を予定

希望者のみの限定ワークショップ

### ■備考（オフィスアワー）

## 視覚表現演習 1

代表教員：岩井 成昭

曜日時限：金曜 4～5 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

空間において形や色などの視覚情報を使ってメッセージを伝えること。この仕組みを学ぶことはあらゆる表現ジャンルにおいて大きく役立つ。この演習では、視覚芸術の基本である 2 次元及び 3 次元空間の把握や映像の機能などを実践の中から理解し、自身の研究や制作に役立てることを目標とする。具体的には、①空間構成（インスタレーション）の実践。②基本的なビデオ映像の技術と映像表現の理解。③社会とリンクする芸術表現における視覚表現の特質と役割の理解。この三点が主なテーマとなる。

### ■授業計画及び内容

- ・空間を扱う現代美術と多ジャンル（演劇・ダンス・音楽・映像）との接点と、そこから生まれる新しい表現の可能性を解説。
- ・映画・ビデオ・写真・絵画などの表現メディアに共通する「矩形フレーム」の機能を解説。
- ・実際の展示空間に対して与えられた任意の物質の要素（光、色、質量など）の配置や制御によって変化する心理的な効果とそれを活用した配置の法則を学び、同様のテーマにおいて作品制作を行う。
- ・特定の素材を手にしながらかその実在感を享受し、活用させながら作品完成までのコンセプトを平行して考える実践を行う。つまり、作品制作の中で「作業」と「思考」を同時にバランス良く進行させる方法を学ぶ。

### ■教材・参考書

必要に応じて指示する。

### ■成績評価の方法

授業への取り組み（40%）、課題作品（60%）で評価する。

### ■履修上の指示事項

本演習を履修する者は、集中講義「視覚表現演習 2」

を履修することが望ましい。

昨年履修した者は単位取得の合否に関わらず履修不可。

### ■備考（オフィスアワー）

## 視覚表現演習 2

代表教員：岩井 成昭

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

視覚表現演習 1 において掲げた「視覚芸術の根本である 2 次元及び 3 次元空間の把握や映像の機能などを実践の中から理解し、自身の研究や制作に役立てる」というテーマを完結させるために、特に空間構成と概念的な表現を中心とした制作を行う。また、自身をとりまく環境や日常生活の中から主題や手法を導き出し、表現として成立させる手法をワークショップ形式で学習する。

### ■授業計画及び内容

5 日間連続のワークショップ形式で、履修生には、ほぼ毎日異なる課題が与えられる予定。課題はそれぞれの主題と共に、空間、時間、使用メディア、個人又はグループ制作、などの個別の条件を持ち、その条件を満たしたうえで制作する。完成作品は、その日内か翌日にプレゼンテーションされ、毎回全員によるディスカッション形式で講評を行う。

### ■教材・参考書

必要に応じて指示する。

また、特定の素材を扱う課題においては全履修生分を一括購入し、同素材費を徴収する場合がある。

### ■成績評価の方法

授業への取組み（40%）、課題作品（60%）で評価する。

### ■履修上の指示事項

昨年履修した者は単位取得の可否に関わらず履修不可。

### ■備考（オフィスアワー）

## ジャズ・ポピュラー音楽演習

代表教員：香取 良彦

曜日時限：月曜 5 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

ジャズ・ポピュラー音楽がどのように作られるか、演奏を主体とした音楽の実践を通して学ぶ。アンサンブル、楽器、アレンジ、アドリブのノウハウを習得、機会があれば演奏イベント・録音制作などについても知識を深める。

### ■授業計画及び内容

#### 【前期】

? リズムや歌のように、演奏／アンサンブルの礎になるものについて学ぶ。

? アドリブの実践。

? アレンジの実際について。

? エスニック・リズムなどについて、可能な範囲で講師を招聘する。

#### 【後期】

? 演奏会または録音の制作を目標に、バンドを編成する。

? 制作内容により、付随して必要な知識を学ぶ。

### ■教材・参考書

（参考）『ジャズのオキテ』（山下洋輔・香取良彦他／全音出版社・教員室所蔵）

### ■成績評価の方法

出席（70%）、個人の進捗（30%）

### ■履修上の指示事項

五線紙・筆記用具は必ず持参のこと。声または楽器の演奏が主になるので、個人練習が必要になる場合がある。アンサンブルでは出席の責任は重大なので、責任感ある授業参加が望まれる。大学の楽器備品等を要する場合は、その有無および貸出要件などを確認しておくこと。・学生の作・編曲を強く勧める。

### ■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスは G-net シラバスに記載]

## ジャズ・ポピュラー音楽理論

代表教員：香取 良彦

曜日時限：月曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■授業のテーマ

演奏、作・編曲に必要なことから、ジャズ・ポピュラー的方法論を用いて、基礎から修得する。

### ■授業計画及び内容

【ジャズ・ハーモニー】

1. コード・ネーム
2. テンションとヴォイシング
3. ハーモニー進行の分析
  - ①メジャー・キー
  - ②マイナー・キー
  - ③モーダル・インターチェンジ
4. モード

【アドリブ】

5. インプロビゼーションとコード・スケール (5. →4. の順に学ぶ)

### ■教材・参考書

<参考図書> 『音楽理論ワークブック』（北川祐著／リットー・ミュージック）  
『よくわかるやさしい音楽理論』（香取良彦著／リットー・ミュージック）

### ■成績評価の方法

成績は、出席（50%）、試験（30%）、課題（20%）により決まる。

単位取得の条件は、相当回数以上の出席、試験の受検、課題全ての提出。

### ■履修上の指示事項

音楽基礎演習を修得していること（または同等の予備知識を持っていること）。簡単なリード・シートを実ながらメロディとコードをピアノ演奏できることが望ましい。

### ■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスは G-net シラバスに記載]

## 身体芸術論

代表教員：市村 作知雄

曜日時限：金曜 3 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

身体芸術の基礎を中心に講義する。  
演劇、ダンス、関連分野に触れながら、現代のアートのあり方を解明する

### ■授業計画及び内容

映像を見る

### ■教材・参考書

適宜配布

### ■成績評価の方法

出席とレポート

### ■履修上の指示事項

作品を多く見ること

### ■備考（オフィスアワー）

金曜日 5 時より

## スタディスキル

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：火曜 1～2 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

音楽環境創造科で学習する上で必要となる基礎的な知識を習得する。

### ■授業計画及び内容

講義は以下の内容を予定している。

- ・東京藝術大学の歴史
- ・芸術に対する価値観等
- ・情報収集、図書館の利用、情報の整理、フィールドワーク
- ・発表の仕方、ディスカッション
- ・コンピュータやインターネットの利用、ソフトウェアの使用
- ・音と音楽の聴取
- ・プロジェクト、アートパスについて

### ■教材・参考書

教科書は特に定めませんが、必要に応じて参考書を紹介します。

### ■成績評価の方法

評価は課題および出席などによって行う。ただし出席回数が全体の 2/3 に満たない場合は失格、不正行為（データの改ざん、アイデアの盗用など）は不可とする。

### ■履修上の指示事項

音楽環境創造学科（1年生）を対象とする。

### ■備考（オフィスアワー）

教員によって異なるため、メールなどの手段で予約をとること。

## 声楽実技演習

代表教員：平松 英子

曜日時限：月曜 2 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■授業のテーマ

声を使った音楽表現の実践と研究

### ■授業計画及び内容

- 1) 発声のメカニズム（声と身体の仕組み）
  - 2) 母音と響きの関連性
  - 3) 声という楽器
  - 4) 言葉と音楽
  - 5) 歌唱による自由な音楽表現
- 以上の内容を通年で研究する。

### ■教材・参考書

学期はじめにガイダンスを行う。様々な「歌」作品を扱う。  
楽譜などに関しては適宜指示。

### ■成績評価の方法

平常点、授業態度、レポートなど総合的な評価によるが、出席を重視する。  
前期／後期の各学期末に演奏を発表する。

### ■履修上の指示事項

身体運動しやすい服と履物で授業に出席すること。

### ■備考（オフィスアワー）

担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

## 卒業制作

代表教員：西岡 龍彦  
曜日時限：その他  
学 期：通年  
単 位 数：12  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽学部  
交流区分：

### ■授業のテーマ

音楽環境創造科4年生を対象に、卒業制作・卒業論文の指導を行う。

### ■授業計画及び内容

西岡龍彦 金曜Ⅱ限 [上野校地開設]  
熊倉純子 金曜Ⅳ限  
亀川徹 金曜Ⅳ限  
市村作知雄 金曜Ⅳ限  
毛利嘉孝 金曜Ⅳ限  
丸井淳史 金曜Ⅳ限

### ■教材・参考書

### ■成績評価の方法

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

## 卒業制作・研究

代表教員：市村 作知雄  
曜日時限：月曜2限  
学 期：通年  
単 位 数：8  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽学部  
交流区分：

### ■授業のテーマ

卒論、卒業制作の指導をおこなう

### ■授業計画及び内容

### ■教材・参考書

### ■成績評価の方法

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

金曜5時より

## 卒業制作・研究

代表教員：毛利 嘉孝

曜日時限：水曜2限

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

卒業論文指導

### ■授業計画及び内容

### ■教材・参考書

### ■成績評価の方法

### ■履修上の指示事項

事前に指導教員に必ず相談のこと。

### ■備考（オフィスアワー）

## 卒業制作・研究

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：金曜2限

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

卒業作品、卒業論文

### ■授業計画及び内容

卒業作品、卒業論文の指導を行う。

### ■教材・参考書

授業内で指示する。

### ■成績評価の方法

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

木曜日、金曜4限

## 卒業制作・研究

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：金曜2限

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

卒業制作・卒業論文の指導

### ■授業計画及び内容

ゼミ形式で毎回1名が卒業制作・卒業論文に関する発表をおこない、全員でディスカッションする。

### ■教材・参考書

### ■成績評価の方法

卒業制作（基本的に論文を課す）

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

金曜5限

## 卒業制作・研究

代表教員：亀川 徹

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

録音、サウンドデザイン、音響に関する卒業研究・制作に関する指導をおこなう。

### ■授業計画及び内容

各自の研究、制作の進捗状況に応じて適宜指導をおこなう。

### ■教材・参考書

### ■成績評価の方法

日常の取り組みと提出された卒業論文・作品を総合的に評価する。

### ■履修上の指示事項

音楽環境創造科4年生対象

### ■備考（オフィスアワー）

メールにて適宜指示する。

## 卒業制作・研究

代表教員：丸井 淳史

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

卒業制作・卒業論文の研究指導を行う。

### ■授業計画及び内容

受講生の進度に合わせ個人指導を行う。

### ■教材・参考書

### ■成績評価の方法

### ■履修上の指示事項

音楽環境創造科4年生対象。

### ■備考（オフィスアワー）

## ソルフェージュ（音楽基礎演習 A）

代表教員：テシュネ ローラン

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

ソルフェージュ実技と音楽理論の習得

### ■授業計画及び内容

音楽的能力の総合的開発と向上を目指し、古典から現代にいたる幅広いレパートリーを楽譜読解能力を深めながら、研究する。

### ■教材・参考書

適宜指示する。

### ■成績評価の方法

平常点と試験

### ■履修上の指示事項

音楽基礎演習（中級）を履修した学生、あるいは同程度の能力があると認められた学生。前・後期ともに上野校地で開講する。

### ■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

<http://musique-art-vie.seesaa.net/>

## ソルフェージュ（音楽基礎演習 B）

代表教員：照屋 正樹  
曜日時限：月曜3限  
学 期：通年  
単 位 数：2  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽併設  
交流区分：

### ■授業のテーマ

ソルフェージュ実技と音楽理論の習得

### ■授業計画及び内容

音楽的能力の総合的開発と向上を目指し、古典から近・現代にいたる幅広いレパートリーを楽譜読解能力を深めながら、研究する。

### ■教材・参考書

適宜指示する。

### ■成績評価の方法

平常点と試験

### ■履修上の指示事項

音楽基礎演習（中級）を履修した学生、あるいは同程度の能力があると認められた学生。教職課程を履修している者は、履修便覧記載通りに履修すること。上野校地で開講する。

### ■備考（オフィスアワー）

## 日本音楽概論

代表教員：森重 行敏  
曜日時限：金曜2限  
学 期：前期  
単 位 数：2  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽併設  
交流区分：交流

### ■授業のテーマ

日本における過去から現在までの様々な音楽のあり方について、時代背景、ジャンル別などの特徴を概観する。

### ■授業計画及び内容

日本における多文化並立的音楽の様相を、映像・音響資料を活用して概観するとともに、実際の楽器にも触れてみることにより、日本音楽の特性を実感したい。また、総合芸術的發展を遂げている各種の古典芸能鑑賞の予備知識を得るとともに、新しい表現分野における、音楽のあり方を模索するきっかけとしたい。

予定される主なテーマ

雅楽  
能楽  
近世邦楽・歌舞伎  
近世邦楽・三曲  
民俗芸能  
現代邦楽  
唱歌・童謡・歌謡曲

### ■教材・参考書

資料はプリント配布。参考書は必要に応じて指示する。

### ■成績評価の方法

レポート、出席率。

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

## 日本音楽概論

代表教員：森重 行敏

曜日時限：金曜2限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■授業のテーマ

日本における過去から現在までの様々な音楽のあり方について、時代背景、ジャンル別などの特徴を概観する。

### ■授業計画及び内容

日本における多文化並立的音楽の様相を、映像・音響資料を活用して概観するとともに、実際の楽器にも触れてみることにより、日本音楽の特性を実感したい。また、総合芸術的発展を遂げている各種の古典芸能鑑賞の予備知識を得るとともに、新しい表現分野における、音楽のあり方を模索するきっかけとしたい。

予定される主なテーマ

雅楽

能楽

近世邦楽・歌舞伎

近世邦楽・三曲

民俗芸能

現代邦楽

唱歌・童謡・歌謡曲

### ■教材・参考書

資料はプリント配布。参考書は必要に応じて指示する。

### ■成績評価の方法

レポート、出席率。

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

日本のコマースの歴史  
選曲の実習

## プロジェクト1

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：12

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

音楽・音響作品の制作と発表。

### ■授業計画及び内容

楽音、ノイズ、声、言葉などさまざまな素材による表現技術を習得する。他分野（映像、舞台等）との共同制作を行う。

・作品制作のための楽器の研究（歴史、楽器法、音響的特性、サンプリングなど）。

・マルチチャンネルによる音響表現。

### ■教材・参考書

必要に応じて指示する。

### ■成績評価の方法

作品の評価と平常点。

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

個人面談を前期と後期に設ける。

## プロジェクト1Ⅱ

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

音楽・音響作品の制作と発表。

### ■授業計画及び内容

楽音、ノイズ、声、言葉などさまざまな素材による表現技術を習得する。他分野（映像、舞台等）との共同制作を行う。

- ・作品制作のための楽器の研究（歴史、楽器法、音響的特性、サンプリングなど）、今年度は邦楽器。
- ・マルチチャンネルによる音響表現。

### ■教材・参考書

必要に応じて指示する。

### ■成績評価の方法

作品の評価と平常点（企画力、計画性、協調性など）

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

音楽・音響作品の制作と発表。

## プロジェクト1Ⅲ

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

音楽・音響作品の制作と発表。

### ■授業計画及び内容

楽音、ノイズ、声、言葉などさまざまな素材による表現技術を習得する。他分野（映像、舞台等）との共同制作を行う。

- ・作品制作のための楽器の研究（歴史、楽器法、音響的特性、サンプリングなど）、今年度は邦楽器。
- ・マルチチャンネルによる音響表現。

### ■教材・参考書

必要に応じて指示する。

### ■成績評価の方法

作品の評価と平常点（企画力、計画性、協調性など）

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

個人面談を前期と後期に設ける。

## プロジェクト2

代表教員：熊倉 純子  
曜日時限：その他  
学 期：通年  
単 位 数：12  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽学部  
交流区分：

### ■授業のテーマ

平成20年度以前の入学者対象

### ■授業計画及び内容

### ■教材・参考書

### ■成績評価の方法

### ■履修上の指示事項

### ■備考（オフィスアワー）

## プロジェクト2Ⅱ

代表教員：熊倉 純子  
曜日時限：その他  
学 期：通年  
単 位 数：8  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽学部  
交流区分：

### ■授業のテーマ

芸術表現を通じた地域社会へのアプローチを実践的に模索する。

共同で企画を立ち上げ場を作ることのマネジメントを学ぶ。

または、作品制作を通して社会に新たな表現の場の提示をおこなう。

### ■授業計画及び内容

学部2年次の履修科目。共同で取り組む実践活動のほか、個々人でテーマを決めて研究発表会にむけて調査研究を行う。

### ■教材・参考書

必要に応じて指示する。

### ■成績評価の方法

出席と製作／制作への姿勢、作品あるいは企画や調査研究の実施。

12月のアートパスでの発表、1月の研究発表会における個人プレゼンテーションも評価の対象とする。

### ■履修上の指示事項

アートマネジメントの実践現場に関しては、教員と相談の上、決定する。また、実践より調査や理論研究に重点を置く場合も、教員と相談の上、実施スケジュールや課題設定をおこなう。

### ■備考（オフィスアワー）

## プロジェクト2Ⅲ

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

芸術表現を通じた地域社会へのアプローチを実践的に模索する。

共同で企画を立ち上げ場を作ることのマネジメントを学ぶ。

または、作品制作を通して社会に新たな表現の場の提示をおこなう。

### ■授業計画及び内容

学部3年次の履修科目。共同で取り組む実践活動のほか、個々人でテーマを決めて研究発表会にむけて調査研究を行う。

### ■教材・参考書

必要に応じて指示する。

### ■成績評価の方法

出席と製作／制作への姿勢、作品あるいは企画や調査研究の実施。

12月のアートパスでの発表、1月の研究発表会における個人プレゼンテーションも評価の対象とする。

### ■履修上の指示事項

アートマネジメントの実践現場に関しては、教員と相談の上、決定する。また、実践より調査や理論研究に重点に置く場合も、教員と相談の上、実施スケジュールや課題設定をおこなう。

### ■備考（オフィスアワー）

## プロジェクト3

代表教員：亀川 徹

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：12

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

録音制作、舞台音響、サウンドデザインなどの研究・実践を通して、音の扱い方について学ぶ。

千住キャンパスのスタジオシステムや録音、音響機材の概要を理解し、録音制作、編集作業などの実習をおこなう。

### ■授業計画及び内容

授業計画

聴能形成とクリティカルリスニング

スタジオシステムの概要と録音作業の基本

ステレオ録音実習

サウンドデザイン制作実習

サラウンドサウンドの概要と録音実習

空間音響のシミュレーション技術

アートパス及び研究発表に向けた準備と総括

上記内容を目安にすすめる。

千住のスタジオを中心に作業するが、必要に応じて上野（第6ホール、奏楽堂）での録音や、屋外でのフィールド録音も行う。

### ■教材・参考書

その都度必要に応じ配付する。

### ■成績評価の方法

出席と授業態度を重視しつつ、アートパスと研究発表会の内容を評価する。

### ■履修上の指示事項

音楽環境創造科（2、3年）生対象

合わせて録音技法研究を履修すること。

### ■備考（オフィスアワー）

メールにて個別に設定。

## プロジェクト3Ⅱ

代表教員：亀川 徹  
曜日時限：その他  
学 期：通年  
単 位 数：8  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽学部  
交流区分：

### ■授業のテーマ

録音制作、舞台音響、サウンドデザインなどの研究・実践を通して、音の扱い方について学ぶ。  
千住キャンパスのスタジオシステムや録音、音響機材の概要を理解し、録音制作、編集作業などの実習をおこなう。

### ■授業計画及び内容

#### 授業計画

聴能形成とクリティカルリスニング  
スタジオシステムの概要と録音作業の基本  
ステレオ録音実習  
サウンドデザイン制作実習  
サラウンドサウンドの概要と録音実習  
空間音響のシミュレーション技術  
アートパス及び研究発表に向けた準備と総括

上記内容を目安にすすめる。

千住のスタジオを中心に作業するが、必要に応じて上野（第6ホール、奏楽堂）での録音や、屋外でのフィールド録音も行う。

### ■教材・参考書

その都度必要に応じ配付する。

### ■成績評価の方法

出席と授業態度を重視しつつ、アートパスと研究発表会の内容を評価する。

### ■履修上の指示事項

音楽環境創造科（2年）生対象  
合わせて録音技法研究を履修すること。

### ■備考（オフィスアワー）

メールにて個別に設定。

## プロジェクト3Ⅲ

代表教員：亀川 徹  
曜日時限：その他  
学 期：通年  
単 位 数：8  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽学部  
交流区分：

### ■授業のテーマ

録音制作、舞台音響、サウンドデザインなどの研究・実践を通して、音の扱い方について学ぶ。  
千住キャンパスのスタジオシステムや録音、音響機材の概要を理解し、録音制作、編集作業などの実習をおこなう。

### ■授業計画及び内容

#### 授業計画

聴能形成とクリティカルリスニング  
スタジオシステムの概要と録音作業の基本  
ステレオ録音実習  
サウンドデザイン制作実習  
サラウンドサウンドの概要と録音実習  
空間音響のシミュレーション技術  
アートパス及び研究発表に向けた準備と総括

上記内容を目安にすすめる。

千住のスタジオを中心に作業するが、必要に応じて上野（第6ホール、奏楽堂）での録音や、屋外でのフィールド録音も行う。

### ■教材・参考書

その都度必要に応じ配付する。

### ■成績評価の方法

出席と授業態度を重視しつつ、アートパスと研究発表会の内容を評価する。

### ■履修上の指示事項

音楽環境創造科（3年）生対象  
合わせて録音技法研究を履修すること。

### ■備考（オフィスアワー）

メールにて個別に設定。

## プロジェクト4

代表教員：市村 作知雄  
曜日時限：その他  
学 期：通年  
単 位 数：12  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽学部  
交流区分：

### ■授業のテーマ

演劇・ダンスの創作  
その公演の実現

### ■授業計画及び内容

演劇とダンスの実践を年間を通じておこなう。  
ダンスは森川弘和氏を招く。演劇は、長島確氏とともに  
おこなう。

### ■教材・参考書

適宜配布

### ■成績評価の方法

平常点と出席

### ■履修上の指示事項

2年生以上はできるかぎり舞台芸術論を取ること  
プロジェクトの時間以外でもおこなう。

### ■備考（オフィスアワー）

火曜 5 限以降

## プロジェクト4 II

代表教員：市村 作知雄  
曜日時限：その他  
学 期：通年  
単 位 数：8  
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）  
開設区分：音楽学部  
交流区分：

### ■授業のテーマ

演劇・ダンスの創作  
その公演の実現

### ■授業計画及び内容

演劇とダンスの実践を年間を通じておこなう。  
ダンスは、森川弘和氏を招く。演劇は、長島確氏とと  
もにおこなう。

### ■教材・参考書

適宜配布

### ■成績評価の方法

平常点と出席

### ■履修上の指示事項

2年生以上はできるかぎり舞台芸術論を取ること  
プロジェクトの時間以外でもおこなう。

### ■備考（オフィスアワー）

火曜 5 限以降

## プロジェクト4Ⅲ

代表教員：市村 作知雄

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

演劇・ダンスの創作

その公演の実現

### ■授業計画及び内容

演劇とダンスの実践を年間を通じておこなう。

ダンスは、森川弘和氏を招く。演劇は、長島確氏とともにおこなう。

### ■教材・参考書

適宜配布

### ■成績評価の方法

平常点と出席

### ■履修上の指示事項

2年生以上はできるかぎり舞台芸術論を取ること  
プロジェクトの時間以外でもおこなう。

### ■備考（オフィスアワー）

火曜 5 限以降

## プロジェクト5

代表教員：毛利 嘉孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：12

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

表現の全領域に拡大しつつあるデジタル化によって音楽や美術、映像の表現はどのように変化しつつあるだろうか。理論研究と実践を通じて文化の未来形を考える。

### ■授業計画及び内容

演習及びフィールドワーク。

適宜、外部講師を交えたディスカッションを行うとともに、メディアを通じた情報発信の実習を行う。

### ■教材・参考書

年度の開始時に指示

### ■成績評価の方法

平常点

### ■履修上の指示事項

きちんと論理的に文章を読解し、記述する能力が求められる。視覚文化に興味のある学生はその旨、担当教官と相談すること。

### ■備考（オフィスアワー）

火曜日 12:00-1300

## プロジェクト5Ⅱ

代表教員：毛利 嘉孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

表現の全領域に拡大しつつあるデジタル化によって音楽や美術、映像の表現はどのように変化しつつあるだろうか。理論研究と実践を通じて文化の未来形を考える。

### ■授業計画及び内容

演習及びフィールドワーク。

適宜、外部講師を交えたディスカッションを行うとともに、メディアを通じた情報発信の実習を行う。

### ■教材・参考書

年度の開始時に指示

### ■成績評価の方法

平常点

### ■履修上の指示事項

きちんと論理的に文章を読解し、記述する能力が求められる。視覚文化に興味のある学生はその旨、担当教官と相談すること。

### ■備考（オフィスアワー）

火曜日 12:00-1300

## プロジェクト5Ⅲ

代表教員：毛利 嘉孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

表現の全領域に拡大しつつあるデジタル化によって音楽や美術、映像の表現はどのように変化しつつあるだろうか。理論研究と実践を通じて文化の未来形を考える。

### ■授業計画及び内容

演習及びフィールドワーク。

適宜、外部講師を交えたディスカッションを行うとともに、メディアを通じた情報発信の実習を行う。

### ■教材・参考書

年度の開始時に指示

### ■成績評価の方法

平常点

### ■履修上の指示事項

きちんと論理的に文章を読解し、記述する能力が求められる。視覚文化に興味のある学生はその旨、担当教官と相談すること。

### ■備考（オフィスアワー）

火曜日 12:00-1300

## プロジェクト6Ⅱ

代表教員：丸井 淳史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

- \* コンピュータプログラミングや音響実験などの研究・実践を通して、音の扱い方について学ぶ。
- \* 千住キャンパスのスタジオシステムや録音・音響機材の概要を理解し、音響信号処理や音響心理実験の基礎を身につける。

### ■授業計画及び内容

- \* 聴能形成とクリティカルリスニング
- \* 音の測定
- \* コンピュータでの音の扱い
- \* デジタル音響の理解と信号処理
- \* 空間音響のシミュレーション技術
- \* 千住 Art Path および研究発表に向けた準備と総括

### ■教材・参考書

- \* その都度必要に応じ配付する。

### ■成績評価の方法

- \* 出席と授業態度を重視しつつ、千住 Art Path と研究発表会の内容を評価する。

### ■履修上の指示事項

- \* 音楽環境創造科2年生対象。
- \* あわせて音楽環境創造概説2を履修する(もしくは履修済みである)こと。

### ■備考（オフィスアワー）

- \* 隔週木曜日午後 あるいは メール連絡にて個別に設定
- \* 資料類は<http://www.geidai.ac.jp/~marui>に掲載する。(学内からのみアクセス可能)

## プロジェクト6Ⅲ

代表教員：丸井 淳史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

### ■授業のテーマ

- \* コンピュータプログラミングや音響実験などの研究・実践を通して、音響心理研究について学ぶ。
- \* 基礎的な統計処理を身につけ、音響心理実験の実施方法を学習する。

### ■授業計画及び内容

- \* 聴能形成とクリティカルリスニング
- \* 音の測定・校正
- \* 科学的方法論の学習
- \* 音響心理実験と統計処理
- \* 千住 Art Path および研究発表に向けた準備と総括

### ■教材・参考書

- \* その都度必要に応じ配付する。

### ■成績評価の方法

- \* 出席と授業態度を重視しつつ、千住 Art Path と研究発表会の内容を評価する。

### ■履修上の指示事項

- \* 音楽環境創造科3年生対象。
- \* 音楽環境創造概説2を履修済みであること。
- \* あわせて音響心理研究法を履修するのが望ましい。

### ■備考（オフィスアワー）

- \* 隔週木曜日午後 あるいは メール連絡にて個別に設定
- \* 資料類は<http://www.geidai.ac.jp/~marui>に掲載する。(学内からのみアクセス可能)

## ポピュラー音楽研究

代表教員：東谷 護

曜日時限：金曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

### ■授業のテーマ

ポピュラー音楽研究(Popular Music Studies)の諸相

### ■授業計画及び内容

ポピュラー音楽は、我々にとって身近な存在であり、ポピュラー音楽を誰しもが知っていることだろう。具体的にこういう音楽だ、ということ誰かが口に出来るだろう。だが、その指し示す範囲は、共通している部分もあれば、大きく異なってくることは想像に難くない。というのは、ポピュラー音楽に確たる定義はない、といえるからである。にもかかわらず、あまりに我々の身近なところに存在しているが故に、それらを自明のものとし、あらためてポピュラー音楽について考えることはあまりなかった。学術研究の場では、散発的ではあるが、研究対象となってきたことはある。だが芸術音楽とはちがうく価値の低いもの>という呪縛によって、研究対象とすることさえ憚れてきた。

近年、様々な価値観の変化、学問の世界でも研究のパラダイム・シフトが様々な領域で行われてきたことによって、ようやく、ポピュラー音楽に対しても研究対象として正面からアプローチする試みが欧米を中心に増えてきている。日本では、大学院生の修士論文、学部生の卒業論文としては、ポピュラー音楽を正面から扱うものが増えつつある。(現に授業担当者の博士論文は、ポピュラー音楽をテーマとしたものである。)

ポピュラー音楽は20世紀の文化を代表するものの一つである、といっても過言ではない。実際に事象として存在するポピュラー音楽に対して、学術研究を行うにはどのようにアプローチしていけばいいのか、ということ念頭に、授業では理論と方法を多角的に検討していきたい。

### ■教材・参考書

適宜、紹介する。

### ■成績評価の方法

平常点（研究発表）、研究レポート（予定）

### ■履修上の指示事項

積極的な受講を歓迎する。

### ■備考（オフィスアワー）

- ・原則として、授業終了後。
- ・電子メールで事前に連絡をしてもらうことも可能です。

その際には、メールの表題に必ず「芸大PM研究・氏名」を書き込み、：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

宛に送ってください。

## メディア・リテラシー

代表教員：水越 伸

曜日時限：月曜5限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■授業のテーマ

現代の複雑なメディア社会をとらえ、その中を生きていくために、メディア論およびメディア・リテラシーの基本的な考え方を学ぶ。授業は、講義とグループワークを総合して進める。前半は、講義形式でメディア論およびメディア・リテラシーに関する基礎的な知識を学ぶ。後半は、なんらかのメディア表現実践をグループワークでおこない、身体的に理解を深めていく。

今年度はラジオをトピックとして扱う予定。

### ■授業計画及び内容

- 01 回目 4月07日 オリエンテーション&講義（メディア論の基礎）
- 02 回目 4月14日 講義（メディアの歴史）
- 03 回目 4月21日 講義（メディア・リテラシーとはなにか）
- 04 回目 4月28日 講義（メディア・リテラシーの実践）
- 05 回目 5月12日 グループ分け&テーマの決定
- 06 回目 5月19日 グループワーク 01
- 07 回目 5月26日 グループワーク 01
- 08 回目 6月02日 発表と中間まとめ
- 09 回目 6月09日 グループワーク 02
- 10 回目 6月16日 グループワーク 02
- 11 回目 6月23日 グループワーク 02
- 12 回目 6月30日 発表とまとめ

（変更もあり得る、その都度連絡をする）  
くことが求められます。

### ■教材・参考書

- ・水越伸『メディア・ビオトープ：メディア生態系をデザインする』紀伊国屋書店、2005年。
- ・水越伸『改訂版 21世紀メディア論』放送大学教育振興会、2014年

### ■成績評価の方法

出席状況とグループワークの成果を総合的に勘案する。試験やレポートはおこなわない。出席は厳しくチェックする。

### ■履修上の指示事項

授業時間以外でグループワークをおこなう必要がある。

### ■備考（オフィスアワー）

水越研究室 [www.mediabiotope.com](http://www.mediabiotope.com)

## 録音技法研究

代表教員：亀川 徹

曜日時限：月曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

### ■授業のテーマ

マイクロホンを用いた收音、ミキシング手法や、マルチチャンネルステレオ方式による録音再生方法など、録音技術に関するテーマについて研究する。

### ■授業計画及び内容

録音に関係する音響技術（聴覚、楽器音響、建築音響などの概要）

録音機器の概要

マイクロホンテクニック

エフェクタの原理と実践

編集とマスタリング

サラウンドサウンドの概要と收音方式

録音の評価とクリティカルリスニング

上記テーマに関連して適宜スタジオでの録音実習をおこなう。

### ■教材・参考書

「サラウンド入門」(芸大出版) 他、適宜指示する。

### ■成績評価の方法

出席、期末レポート、平常の授業態度を総合的に評価する。

### ■履修上の指示事項

学部開講の「音響学」か「音楽環境創造概説2」を履修しておくことを推奨する。

### ■備考（オフィスアワー）

木曜Ⅱ?Ⅴ限（会議の無い日）、金曜Ⅴ限